

みえんしす 53号



1P▶3P

特集 第44回企画展

「WHO ARE WE」

観察と発見の生物学

国立科学博物館収蔵庫コレクション | Vol.01 哺乳類

がはじまります



ミュージアム
レポート
MUSEUM REPORT



4P 二つの獅子頭



5・6P

MieMulにはこんな研究をしている人がいます
～館長・学芸員紹介～



「WHO ARE WE

観察と発見の生物学

国立科学博物館収蔵庫コレクション | Vol.01 哺乳類」がはじまります

国立科学博物館の巡回展について

国立科学博物館は、安定的に標本・資料を収集し、多様なコレクションを適切に保管し続ける体制を維持するため、2023年に「地球の宝を守れ」を合言葉に、クラウドファンディングに挑戦し、全国からたくさんの方の温かいご支援をいただきました。その期待に応えるべく、ご支援の一部を活用し、博物館が標本・資料を収集する意義を知っていただく機会として、巡回展「WHO ARE WE 観察と発見の生物学」の特別開催を行うこととなりました。当館は全国で4館目の特別開催地となります。

世界屈指の哺乳類の剥製「ヨシモトコレクション」

展示室では、国立科学博物館の収蔵庫の中から世界屈指の動物標本コレクションとして知られる「ヨシモトコレクション」を中心に、選りすぐりの哺乳類の剥製など、見ごたえのある標本がずらりと並びます。

「ヨシモトコレクション」とは、1946年から1995年にかけて世界中からハンティングによって得られた標本群です。ハワイ・オアフ島のW.T.ヨシモト財団より、国立科学博物館へ寄贈されました。多くは全身が剥製として残されていて、現在では調査が困難な地域の標本も多数含まれており、きわめて学術的価値の高いものです。



ケース越しではなく直接観察できる大型剥製標本は迫力満点！

写真提供：国立科学博物館

「発見の体験」をする展示

展示のテーマは「観察の眼、発見の芽」です。その名のとおり、貴重な標本の周りにはあえて解説を置かず、目の前にある剥製などの標本をじっくりと観察することができます。また、標本とあわせて配置された木製の展示台には引き出しがあり、中を引き出すことで、標本を観察するためのヒントが現れます。その情報を頼りに再び標本をじっくりと観察することで、自分なりの気づきをさらに深めることができます。展示台の引き出しの数は、なんと46か所もあり、じっくり観察するための“しかけ”が盛りだくさんです。



木製展示台に設置された引き出しの中には、標本を観察するためのヒントが隠されています。

写真提供：国立科学博物館

哺乳類とは

地球上には190万種を超える生き物が発見されています。その中で哺乳類はわずか0.3%ほどです。私たちヒトも哺乳類の一種ですが、いったい哺乳類とは、どのような生きものなのでしょうか。哺乳類ならではの5つの特徴を、これらの頭文字をとって、「はたちせみ」というワードで紹介しています。

は「歯のかたちが多様」
た「体温を一定に保つ」
ち「乳で子を育てる」

せ「成長のパターン」 み「耳の中の3つの骨」

これらの共通の特徴をもつ哺乳類ですが、個々に細部を観察していくと、なんと不思議でおもしろい世界が広がります。知れば知るほど、謎が増え、問いが生まれてきます。

例えば「かもしれない模様」という展示では、シマウマの模様について観察します。シマウマの模様は、一見、目立つように見えますが、群れになることで一頭一頭が目立たなくなるとか、ライオンなどの肉食動物から狙われやすい子どもをうまく隠すことができるとか、諸説あります。また、縞模様は他の生きものでも多くみられる模様です。では、どうしてそのような模様になったのか、いろいろと理由は考えられますが、誰も答えを言い切れません。やはり、「かもしれない模様」なのです。



シマウマの縞模様について、その理由を考える。
「かもしれない模様」の展示

写真提供：国立科学博物館

博物館が標本を集めるワケ

博物館では、たくさんの生きものを標本として保存しています。ある生きものを理解しようとする、たくさんの標本が必要になります。オスとメスによる違い、年齢による違い、地域による違い、個体による違いなどを比べるために標本をたくさん集めることが重要になってきます。博物館が「今」を記録するために集め、保存していく標本は、将来きっと誰かが役立ててくれるはずです。WHO ARE WEの展示には、そんなメッセージが詰まっています。

第44回企画展

WHO ARE WE 観察と発見の生物学

国立科学博物館収蔵庫コレクション |
Vol.01 哺乳類



写真提供：国立科学博物館

日 時 2026年7月11日(土)～9月27日(日)
9時から17時まで
(最終入場は16時30分まで)
会 場 三重県総合博物館 3階企画展示室
休 館 日 毎週月曜日(休日の場合はその翌平日)

観 覧 料 企画展のみ
一般 700 (560) 円
学生 400 (320) 円
高校生以下 無料

基本展示とのセット券
一般 1000 (800) 円
学生 600 (480) 円
高校生以下 無料

※ () 内は前売りおよび20名以上の団体料金です。障害者手帳等の交付を受けている方とその介護者1名は、無料となります。

主 催 三重県総合博物館・国立科学博物館
協 力 近畿日本鉄道株式会社
後 援 三重県博物館協会
企画編集・デザイン 日本デザインセンター
三澤デザイン研究室

MieMu オリジナル企画 「くらべて なっとく 哺乳類のからだ」

WHO ARE WE の展示をご覧いただいた後には、展示テーマである「観察の眼、発見の芽」にあわせた三重県総合博物館のオリジナル企画「くらべて なっとく 哺乳類のからだ」もご覧いただけます。

私たちがすむ三重という地に目を向けて、私たちの身近にすんでいる哺乳類について紹介しています。身近な哺乳類の骨格や剥製などの標本をじっくりと観察し、また、ニホンジカやイノシシ、アライグマなどの足標本などを実際に触って比べることで、からだのつくりや毛色のちがひ、地面につく足跡のかたちの違いなどについてじっくり観察していただけます。

また、2023年に三重県名張市で確認された白い毛色をもつタヌキの剥製を初公開します。通常の茶と黒の毛色をもつタヌキと比べることで毛色の役割について自分なりの理由を考えてみてはいかがでしょうか。



茶と黒の毛色のタヌキ



白の毛色のタヌキ

この夏は、ご家族やご友人と、ぜひ MieMu で「なぜ？」を発見してみてください。

関連イベント

記念講演会

「標本を集めて、利用する」

- 内容** 博物館が保存する標本の役割や重要性について、巡回展「WHO ARE WE 観察と発見の生物学」の製作秘話などを交えてお話しいたします。
- 講師** 川田 伸一郎氏
(国立科学博物館 動物研究部 脊椎動物研究グループ 研究主幹)
- 日時** 2026年8月29日(土)
13時30分から15時まで
- 会場** 当館3階 レクチャールーム
- 対象** 一般
- 定員** 80名(事前申込)
- 締切** 8月8日(土)

ギャラリートーク

- 内容** 当館学芸員が展示を解説します。
- 日時** 2026年7月11日(土)、9月19日(土)
各日15時から(各回30分程度)
- 会場** 当館3階 企画展示室
- 対象** 一般

※本企画展の観覧券(年間パスポート含む)が必要です。

※イベントの開催時間までに企画展示室前にお集まりください。



申込方法、その他イベントにつきましては、HPをご覧ください。

田村 香里

脊椎動物担当として、哺乳類や鳥類の骨格標本や毛皮標本の作製を行っています。盲学校や地域団体と連携し、作製した標本等を活用したキット制作などにも取り組んでいます。



二つの獅子頭

第43回企画展「まつりを旅する 受け継いできた三重の宝もの」では、県内に今も多く伝わる獅子舞が紹介され、それを象徴するものとして複数の獅子頭が展示されています。今回その中から、銘文によって制作年が判明する二つの獅子頭を取り上げます。それらを通して、三重の獅子舞がもつ奥深さの一端を感じていただければと思います。

三重県最古の獅子頭

まず一つは、鈴鹿市の伊奈富神社に伝わる獅子頭です。同社は式内社の伊奈富神社に比定される当地方の古社で、獅子頭はそこに伝わった神宝群の一つです。神像や尉面等とともに一括で三重県指定有形文化財に指定されています。



伊奈富神社獅子頭

太くまっすぐな眉や半球状の大きな目、前面の巨大な鼻が印象的で、やや小ぶりな大きさは、行道面ではないかとの指摘もあります。本体と舌を含めた下顎部からなり、上顎内部に弘安三年(1280)の墨書銘があって、制作年次が判明します。伊奈富神社は、かつて「大宮」を中心にして西に「西宮」、東に「三大神」の三社があったことが知られていますが、銘文に「稻生三大神」とあることから、本獅子頭は、もと東の三大神のものであったことがわかります。三重県内で最古の年号を示す鎌倉時代の獅子頭として、たいへん貴重です。



銘文
「弘安三年
庚辰正月
稻生三大神」

宿院仏師による獅子頭

もう一つは伊勢市の茜社に伝わるもので、伊奈富神社の獅子頭と同様に三重県指定有形文化財に指定されています。



茜社獅子頭

同社は、豊受大神宮(外宮)の近くに在る山田産土神八社の一つです。獅子頭は、その八ツ頭と称した内の一つと言われ、当初は一对であったと思われる。上顎内面の刻銘から、室町時代の永禄二年(1559)に宿院仏師によって制作されたことが判明します。彼らは16世紀の奈良(南都)を中心に活躍した仏師集団で、従来の伝統的な仏師とは異なる番匠(大工関係)出身の、いわば俗人の仏師たちです。銘文には作者の名前を記していませんが、この時期は棟梁の源次とその子息源三郎が中心になって活躍していた時期に該当します。

また、施主の度会元貞は山田大路元貞のことで、当地における有力な御師の一人です。元貞は、永禄二年二月に外宮瑞垣の造営について関わったことが記録に見え、獅子頭の制作は用材調達の時期とほぼ一致しています。本獅子頭は、現在三重県域で確認される唯一の宿院仏師の遺品であり、しかも仏像以外の作例として珍しく、注目されます。



銘文
「古
阿
南都宿院作」
永禄二歳末己五月
度会元貞

瀧川 和也

美術の歴史、特に日本の仏像が専門で、三重を中心にこれまで調査・研究を行ってきました。また、地獄・極楽の絵や写真の歴史等についても調べています。



MieMuにはこんな研究をしている人がいます

～館長・学芸員紹介～



館長就任にあたって

令和8年4月1日付けで、新館長として着任いたしました^{ながますひでとし}永益英敏です。3月末まで京都大学総合博物館に勤務しており、資料部植物分野主任として植物・菌類・藻類・生薬資料等の収集・管理・運用を担当しました。また、平成31年4月から令和7年3月まで3期6年間、京都大学総合博物館長を務めました。

私の専門分野は植物分類学および熱帯植物学です。大学院生のときは、とくに南西諸島の照葉樹林を構成する常緑性樹種を対象として分類学的研究を行いました。その後、研究の中心を東南アジア熱帯域の植物多様性の研究に移し、生態学者との共同研究としてボルネオ島の熱帯雨林の多様性と動植物の共生関係について研究しました。長期的な観測によって初めてわかる熱帯林の動きや新しい送粉シンドロームの発見など、個々の種だけを独立に調べていたのではわからないことを数多く知ることができたのは貴重な体験でした。熱帯地域はまだ名前もついていない植物も多く、もちろん分類学者として新属や新種の記載発表も行っ

ています。さらに、研究対象を東南アジア熱帯域のほば全域に拡大し、定量的な種多様性評価による各地域の植物相の特異性についても研究を行っています。

分類学にとって重要な命名法の分野では、国際植物分類学会常設命名法委員会の全体委員会委員を平成11(1999)年から連続して務めています。およそ6年ごとに開催される国際植物学会議には1993年の横浜大会以来毎回出席し、その会議の結果改訂される新しい「国際植物命名規約」の日本語版を継続して出版することで、最新の命名規約の普及にも取り組んできました。

博物館スタッフとしての経験は長いのですが、大学博物館と違い、三重県総合博物館はより多様な役割を期待されている博物館です。私自身の研究が今後どのようなようになるのか、まだ想像もつかないのですが、博物館長として微力ながら博物館の運営に尽力したいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(館長 永益英敏：植物分類学、熱帯植物学)



館長・学芸員紹介



永益 英敏

植物分類学と熱帯植物学が専門で、主に東南アジアの熱帯域に分布する植物の多様性について研究してきました。植物の命名法の理解と普及にも取り組んでいます。



稲垣 玲弥

博物館教育。とくに子どもを対象とした教育普及を専門にしています。子どもたちが博物館でどんなものに興味をもつかということに関心があります。あと脊椎動物もちょこっと。



星野 利幸

日本古代史(文獻)が専門です。以前は平安時代の官人・官司制度を研究対象としていましたが、近年は三重の古代史、斎王制度や条里制度などを研究対象としています。



北村 淳一

動物生態学が専門で、主に淡水魚類のタナゴ亜科魚類の種多様性の維持機構(多種が共存する仕組み)と生成機構(種分化して進化する仕組み)を研究しています。



甲斐 由香里

保存科学担当。展示資料だけでなく博物館来館者にも適切な環境になるよう調整するほか、収蔵品の保存管理(文化財 IPM 業務、資料分析)などに携わっています。



伊藤 裕偉

日本中世史・考古学。地域史を解明する素材ならば、資料の性格にかかわらず調査対象です。最近は「地域としての熊野」の解明に関心があります。



森田 奈菜

植物分野を担当しています。三重の植物相の解明をめざして、どんな環境にどんな植物が生育しているか?を野外で調べ、現在の環境を標本として残しています。



小掠 光裕

教育学を学んできました。博物館から様々なことを学んで、笑顔になる子どもたちをたくさん見てみたいです。



門口 実代

民俗学が専門で、人びとの暮らしについて、地域でのフィールドワークを通して調べています。また、お雑煮などの食文化や、くらしの道具と絵本との関わりに関心を持っています。



中川 良平

古脊椎動物学が専門で、特に500万年前以降の哺乳類化石に興味を持っています。沖縄の島々にある洞窟を数百ヶ所めぐり、化石や動物骨を探していたこともあります。



中村 千恵

博物館学が専門で、特に博物館を活用した教育活動に興味があります。博物館を利用することで、利用者の人生にどのような影響を与えるのかを、長期的に考えていきたいと思います。



小林 秀

日本中世史が専門です。特に室町時代から戦国時代が得意です。最近では、参宮を支えた神宮御師に興味関心があります。



大島 康宏

昆虫分類学。特に世界中のイチモンジチョウの仲間を研究しています。また、紀伊半島や東海地方の自然を理解するため、どのような昆虫類が生息しているか調査をしています。



福島 幸絵

日本文学が専門です。近代文学を学びましたが専門分野から少し離れたので学び直し中です。これからMieMuにどのように貢献していけるか模索しています。



太田 光俊

伊勢参りや藩校など、江戸時代の三重県の宗教・文化を中心に研究しています。また、あわせて一向一揆・本願寺や専修寺など、戦国・織豊期の宗教についても論者がいます。



田村 香里

脊椎動物担当として、哺乳類や鳥類の骨格標本や毛皮標本の作製を行っています。盲学校や地域団体と連携し、作製した標本等を活用したキット制作などにも取り組んでいます。



福田 良彦

専門分野は民俗で、三重県をフィールドに祭礼や民俗行事、諸職等様々な調査を行ってきました。地域全体を博物館としてとらえるエコミュージアムにも関わってきました。



瀧川 和也

美術の歴史、特に日本の仏像が専門で、三重を中心にこれまで調査・研究を行ってきました。また、地獄・極楽の絵や写真の歴史等についても調べています。

MieMu からのお知らせ

利用案内

■ 利用時間

9時～17時
(基本展示室、企画展示室の最終入場は、閉場30分前まで)

■ 休館日

月曜日(祝日の場合は翌平日)、
年末年始(12/29～1/3)、
その他別途定める日

■ 観覧料

基本展示 一般 520円(410円)、学生 310円(240円)
高校生以下無料 ※()内は団体料金
企画展示 展覧会ごとに別途料金を定めます。
詳しくは各展覧会のお知らせをご覧ください。
年間パスポート 一般 1,670円 学生 1,040円
※障害者手帳等の交付を受けている方とその介護者1名は、無料となります。



MieMu みえむ 三重県総合博物館

三重県津市一身田上津部田3060(三重県総合文化センター向かい) 〒514-0061
tel 059-228-2283(代表) fax 059-229-8310 mail MieMu@pref.mie.lg.jp
HP <https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/MieMu/>
X @mie_pref_museum
facebook @mie.pref.museum
Instagram miemu2014
YouTube <https://www.youtube.com/@MieMu>



三重県総合文化センター

令和8年度みえ文化芸術祭 第76回みえ県展

三重県最大規模の公募美術展である「みえ県展」。今年も県内各地で創作活動をされる作家の方々の作品を一堂に展示します。「日本画」「洋画」「彫刻」「工芸」「写真」「書」の6部門による多彩な作品の数々を会場でご堪能ください。

開催期間中はお子さまから参加いただけるワークショップやギャラリートークの開催日もあります。合わせてお楽しみください。

会場 三重県総合文化センター内 ギャラリー

観覧料 一般300円 学生無料

日時 6月13日(土)～6月21日(日)

9時30分～17時(最終日は15時閉場)

URL <https://www.center-mie.or.jp/bunka/event/detail/56851>



問い合わせ先

三重県文化会館チケットカウンター

三重県津市一身田上津部田1234

Tel 059-233-1122 Fax 059-233-1106

休館日:月曜日(祝日にあたる日は開館、翌日閉館)

三重県総合文化センターは、文化会館・生涯学習センター・男女共同参画センター「フレンテみえ」・県立図書館・放送大学三重学習センターから構成される複合施設です。

三重県立図書館

<使ってみよう!図書館> ビジネス情報コーナー

ビジネス情報コーナーでは業界・企業研究などに役立つ様々な資料や情報を提供しています。図書や雑誌のほか、ハローワークの求人情報、企業のCSR報告書も設置しています。

また、県内企業の事業内容や社会貢献活動等の情報を広く知っていただくため、県内の主要な約70社から会社案内やリーフレットをご提供いただき、設置しています。多様な業種の企業情報を揃えており、就職活動や企業調査など、様々な場面でご利用いただけます。



問い合わせ先

三重県津市一身田上津部田1234

Tel 059-233-1180 Fax 059-233-1190

開館時間:9時～19時

休館日:月曜日(祝日にあたる日は開館、翌日閉館)、月末(土日祝日の場合は、その直前の平日)、

年末年始、特別整理期間



三重県立美術館

ロードアイランド・スクール・オブ・デザイン美術館所蔵 ロックフェラー・コレクション花鳥版画展 北斎、広重を中心に

アメリカのロードアイランド・スクール・オブ・デザイン美術館が所蔵する、アビー・オールドリッチ・ロックフェラー収集・寄贈の花鳥版画コレクションの中から、葛飾北斎や歌川広重の作品を中心に、選りすぐりの163点を公開します。

期間 6月13日(土)～7月26日(日)

観覧料 一般1,200円 学生1,000円 ※高校生以下無料

生誕150周年 アルベール・マルケ展 水辺を愛した画家



アルベール・マルケ(ル・ピラ)
1935年、ボルドー美術館
© Mairie de Bordeaux, Musée des Beaux-Arts, photo, F. Deval

フランス近代絵画の巨匠アルベール・マルケ(1875-1947)の日本では35年ぶりとなる回顧展。日仏の主要美術館や個人コレクションから、油彩画を中心に素描・パステルも含め約100点を展覧します。初期フォーヴィスム作品から、パリのセーヌ河やマルケが旅先で目にした海、港を描いた作品など、とりわけ水辺の情景に焦点を当て、マルケ作品の魅力に迫ります。

期間 8月8日(土)～9月13日(日)

観覧料 一般1,200円 学生1,000円

※高校生以下無料

会場 三重県立美術館 企画展示室

問い合わせ先 三重県津市大谷町11

Tel 059-227-2100(代表)

Fax 059-223-0570

開館時間:9時30分～17時(入館は16時30分まで)

休館日:月曜日(祝日にあたる日は開館、翌平日閉館)、年末年始



三重県環境生活部 文化振興課 歴史公文書班

三重県では、歴史資料として重要な公文書等を“特定歴史公文書等”として三重県総合博物館で保存しており、利用申請手続きにより、総合博物館内の資料閲覧室でご覧いただくことができます。また、資料閲覧室では、定期的に特定歴史公文書等の企画展示もおこなっています。詳しくはHPをご覧ください。

URL <https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/000236866.htm> 問い合わせ先 三重県環境生活部 文化振興課 歴史公文書班

三重県津市一身田上津部田3060 総合博物館3階 Tel 059-253-3690 Fax 059-229-8310



三重県総合博物館情報誌「みえんしす」

「三重の」を、生物に与えられる世界共通の名前である「学名」であらわすと「miensis=みえんしす」となります。この情報誌「みえんしす」は、博物館でもよく使われる学名にちなんであられました。生物だけでなく、博物館が発信する様々な「三重の」をこめて。

発行日:2026年6月12日(禁・無断転載)

企画・編集・発行:三重県総合博物館

印刷:上野印刷株式会社